

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 14 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370795

研究課題名(和文) 信仰形態の変遷からみた四国八十八ヶ所成立過程の研究

研究課題名(英文) Research of the 88 temples along Shikoku pilgrimage establishment process as seen through the transition in faith form

研究代表者

胡 光 (EBESU, Hikaru)

愛媛大学・法文学部・教授

研究者番号：50612644

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：四国遍路は、弘法大師の遺蹟を訪ねるものとされ、現在の各札所には大師堂が設けられ大師一尊化の傾向が強く表れている。しかし、前近代の史料を見ると、札所には多様な信仰が存在していたことがわかる。そこで、大師信仰以前の多様な信仰を抽出し、それらがどのようにして大師信仰に一元化されるかを検討することは、未だ明らかでない札所の成立過程を探る上で有効な方法である。本研究は、各札所にある諸資料を総合的に調査することで、この課題に接近した。第51番札所石手寺と第52番札所太山寺は総合調査を実施し、報告書を作成した。ほかに、第74番札所甲山寺・第75番札所善通寺・第86番札所志度寺などの古文書の一部を調査した。

研究成果の概要(英文)：The "Shikoku Henro" pilgrimage is a circuit route connecting 88 temples associated with Kobo Daishi, and Daishi Hall in these temples expresses the faith of only Kobo Daishi. However, I understand that there was a variety of faith in these sacred places when I watch historical materials of the pre-modern. Therefore I extract a variety of faith before the faith in Kobo Daishi, and consider how they are unified by the faith in Kobo Daishi. This method of study is effective in investigating the establishment process of 88 temples which is not yet apparent. This study tried to solve this problem by researching the cultural resource in 88 temples generally. I investigated generally #51 Ishiteji Temple, #52 Taisanji Temple, and made reports on these temples. I investigated a part of the ancient documents such as #74 Kouyamaji Temple, #75 Zentuuji Temple, #86 Shidoji Temple.

研究分野：日本近世史

キーワード：札所の調査 西方の遍路 遍路日記の発見 大師信仰の基層

1. 研究開始当初の背景

四国遍路は「遍路する人々」「人」「遍路を迎える地域」「地域」「札所(霊場)」の三要素で構成されていると考える。これまでの研究では、遍路日記や案内書を用いた「人」「地域」に関わる研究が主体であった。一方「札所」に係る研究はほとんど進んでおらず、「札所」には寺院だけでなく日本特有の神仏習合文化を示す神社も含まれていたことさえ充分認識されていない。また、山岳信仰、熊野信仰、浄土信仰、大師信仰のそれぞれについては多くの研究があるが、各札所に即して多様な信仰が大師信仰に一元化される過程を検討した研究はほとんどない。四国遍路の研究で最大の課題は、いつ、誰によって、どのように札所が選定され、八十八ヶ所が確立するのかということである。この基本的な命題が今でも定説を見ていない理由は、上記の研究状況(方法)にあると言える。

札所の研究が遅れている理由は、国の文化財調査などにあっても、信仰の対象として非公開とした札所が多かったことによる。近年は、世界遺産化運動などの高揚もあり、霊場会自体が調査に協力的になってきた。

2. 研究の目的

近年さまざまな学問分野で四国遍路研究が盛んに行われている。しかし、歴史学からの研究は少なく、四国八十八ヶ所がいつどのようにして成立したかは全く不明である。本研究は、各札所において多様な信仰がどのようにして大師信仰に一元化されるかを考察することを通して、八十八の札所の成立過程を解明しようとするものである。

四国遍路と言えば、弘法大師の遺蹟を訪ねるものとされ、現在の各札所には必ず大師堂が設けられるなど大師一尊化の傾向が強く表れている。しかし、近世以前の史料を見ると、札所には多様な信仰が存在していたことがわかる。したがって、大師信仰以前の多様な信仰を抽出し、それらがどのようにして大

師信仰に一元化されるかを検討することは、未だ明らかでない札所の成立過程を探る上で有効な方法である。本研究は、各札所にある諸資料を総合的に調査することで、こうした課題を達成しようとするものである。

3. 研究の方法

(1) 歴史学分野の四国遍路研究は、遍路を行う人々や遍路を迎える地域を研究対象とするものが中心であった。これに対し、本研究は公開・未公開の諸資料を用いて札所自体の研究を行う。

(2) これまでの四国遍路成立史の研究は、遍路日記や案内書の分析が中心であった。これに対し、本研究は江戸時代以前の多様で雑多な信仰を抽出・分析し、それが大師信仰に一元化される過程を通して、札所の成立過程を明らかにしようとする。

(3) これまでの四国遍路研究における資料は古文書が中心であったが、本研究では古文書だけでなく聖教(経典)や仏像・仏画など寺内すべての資料を対象として総合的な調査を実施する。

4. 研究成果

以上の視点から本研究では、愛媛県歴史文化博物館・愛媛県美術館・伊方町立町見郷土館・香川県庁・香川県立ミュージアムとも共同で、次の調査を行った。

【総合調査】第 51 番札所石手寺(愛媛県松山市) 第 52 番札所太山寺(同市) 第 75 番札所善通寺(香川県善通寺市/継続中) 久妙寺(愛媛県西条市/継続中)

【概要調査】第 45 番札所岩屋寺(愛媛県久万高原町) 第 74 番札所甲山寺(香川県善通寺市) 第 86 番札所志度寺(香川県さぬき市) 金胎廃寺(愛媛県伊方町) 三崎八幡神社(同町/継続中) 若山依札(愛媛県八幡浜市)

本研究の中心は、第 51 番札所熊野山虚空蔵院石手寺と、既に報告書を刊行している第 52 番札所瀧雲山護持院所太山寺である。

太山寺は、松山平野北部の山間に位置し、堀江湾を臨み、奥之院からは瀬戸内海を一望

できる。諸堂全ての彫刻・絵画・工芸品・聖教・古文書類の調査を行い、その調査資料数は17,000点に及んだ。

国宝太山寺本堂には、後冷泉院・後三条院・堀河院・鳥羽院・崇徳院・近衛院・後白河院が奉納したという平安時代後期制作の十一面観音立像が七軀も安置され、全て重要文化財に指定されている。今次調査では、これらと同時期に制作された五軀の如来像や不動明王像、神像が新たに確認された。これほどの平安仏教遺物が残っている例はなく、伊予国内外からの信仰を集める当寺の特殊性を表すとともに、平安時代には当寺が観音信仰の拠点であったことを示している。

太山寺文書からは、河野家をはじめ、加藤・蒲生・松平家という歴代領主家の厚い保護を受けたことがうかがえる。さらに、五種の古縁起が発見された。室町時代成立の縁起には、聖武天皇の勅願による行基菩薩の開基が謳われていた。江戸時代前期の縁起には、弘法大師開山と八十八ヶ所の記述が見え、中期の縁起には海運の発達と四国遍路の隆盛によって、豊後（大分県）から真野長者伝説が伝わってくる。これによって後期の縁起は、当寺の開基を用明天皇代の真野長者とし、行基菩薩は本尊由緒に特化された。長者を導いたのは観音菩薩であり、元の山号は補陀落山であったことが記される。この地には、長く観音信仰や補陀落信仰が根付き、そこに弘法大師信仰が加わってきた。鎌倉時代の制作になる当寺所蔵の県指定文化財弘法大師像は、四国で最も古いものであり、当寺は大師信仰拡大の拠点でもあった。

真野長者伝説伝来の背景には、九州での弘法大師と四国遍路信仰の拡大があった。西方からの四国遍路の玄関口として、太山寺と高浜・三津浜が知られていたのである。松山藩からの通達も残っていた。真野長者伝説が伝わったのと同じ頃、松山藩では三津浜に制限していた上陸を太山寺近くの高浜も許可す

る。西方からの四国遍路増加状況が分かる。上陸した遍路が目指したのは太山寺であった。阿波の一番札所に象徴されるように、これまでの研究は東方からの遍路に偏った畿内史観とでも言える方法と結論であったが、多様な遍路像を提起することができた。西方からの遍路は、第51番石手寺で結願し、道後温泉で体を癒す。石手寺諸堂全ての彫刻・絵画・工芸品・聖教・古文書類の調査を行い、その調査資料数は5,800点に及ぶ。

往古の石手寺は、石手川から道後温泉付近までを寺地としており、室町時代の守護河野家の居城湯築城と隣接していた。湯築城は道後八幡（伊佐爾波神社）跡地にあり、石手寺以外も天台系寺院が丘陵上に点在し、裏山には末法思想の経塚群があるなど、古来道後一帯が聖地であった。

河野家が湯築城を築くのは南北朝時代であり、石手寺の彫刻・絵画にも南北朝・室町時代の作品が多いのも河野家との関係が考えられる。棟札からも、この時代の建設・修復が多く見られ、四国遍路開創に係る衛門三郎伝説を記す永禄十年（1567）刻板も河野道宣による薬師堂再建にあたり武運長久を祈念したものであった。今次調査で発見された、全国的にも珍しい「大勝金剛図」も河野家由来のものを見てよいだろう。石手寺は以後の領主にも篤い保護を受け「一国之惣本寺」となる。

石手寺の信仰は、河野家の祖、越智玉興が白山権現を勧請したことに始まり、本尊を薬師如来とする寺院をなし、温泉とともに薬師信仰をもとに聖地化する。さらに、真言密教、熊野信仰、阿弥陀信仰、三島信仰が導入され、時宗・真言律宗の影響も受けた。さらに、平安時代後期の寛治三年（1089）弘法大師木像を祀る御影堂が建立されたとするのは定かではないが、永禄十年に大師堂があったのは確実であり、この時既に「札所」であったこと、阿波焼山寺とのネットワークの存在、「再

生」の思想を刻板は伝えており、大師信仰拡大と四国遍路開創に関わる重要寺院であることは論を俟たない。当寺の板木からは、大師信仰に加えて隔夜信仰・念仏信仰・大随求菩薩信仰など庶民信仰を拡張していった様子もうかがえる。

今次調査では、鎌倉時代以来の古い由緒を持つ菩薩面・天童面(愛媛県指定有形文化財)が、一般的な来迎会とは異なる、神仏習合による熊野権現影響を現す、全国的にも珍しい練り供養であったことが明らかとなり、それを描いた絵巻の詳細も提示された。行事の実態が可視化できる貴重な事例である。熊野山という山号にも因み、熊野信仰と八十八ヶ所成立の関係にも注目していきたい。

第45番札所海岸山岩屋寺の岩窟から16,000点もの柿経・笹塔婆が発見された。八十八ヶ所成立期の戦国～江戸時代初期のものと同断じられ、法華経や「南無阿弥陀仏」の名号が見られることから、六十六部や念仏聖が参籠していたことを知る。このほか、八十八ヶ所にならなかった古刹の調査を行い、札所成立の起源を探ろうとしたり、1600点を超える俵札の調査を行ったが、調査資料が膨大であり、比較研究までに至らなかった。他の札所調査とともに、今後の課題としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計8件)

胡光、歴史学研究と大学教育の邂逅 四国遍路研究のフィールドワーク、愛媛大学における地域調査のためのフィールドワーク体制の確立、2017、pp.55-64

胡光、歌舞伎作品の歴史叙述 虚構と真実の世界、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2号、2017、pp.11-13

胡光、愛媛資料ネットの活動と防災への活用、査読無、第2回全国史料ネット研究交流集会報告書、2016、pp.35-38

胡光、四国遍路をめぐる最新の研究から、

愛媛大学法文学部同窓会報、査読無、19、2015、pp.14-17

胡光、四国遍路と伊予霊場、四国遍路と巡礼、査読無、2015、pp.138-143

胡光、遍路文化の起源・継承に学ぶ;癒し・ケアの真髄、査読無、19号、2015、pp.56

胡光、四国霊場開創一二〇〇年の真実、空海の足音四国へんろ展香川編、査読無、2014、pp.24-25

胡光、太山寺と伊予の霊場、空海の足音四国へんろ展愛媛編、査読無、2014、pp.177-182

〔学会発表〕(計6件)

胡光、歴史文化遺産を守り伝えるために、愛媛県博物館研究会、2017年1月13日、愛媛県総合科学博物館(愛媛県)招待講演

胡光、歌舞伎の中の巡礼コメント、四国遍路と世界の巡礼研究会、2016年10月29日、愛媛大学(愛媛県)

胡光、四国遍路の歴史と文化、四国4県とスペイン・ガリシア州協力協定調締結記念国際シンポジウム、2016年2月14日、かがわ国際会議場(香川県)

胡光、遍路文化の起源・継承に学ぶ;癒し・ケアの真髄、日本糖尿病教育・看護学会、2015年9月22日、サンポートホール高松(香川県)招待講演

胡光、四国遍路の歴史と文化、四国4県とスペイン・ガリシア州協力協定調印記念国際シンポジウム、2015年9月1日、パラドール(スペイン・サンティアゴ・デ・コンポステーラ)

胡光、“ロストジャパン”四国遍路、大学電気系教員協議会、2015年8月3日、愛媛大学(愛媛県)招待講演

〔図書〕(計3件)

胡光編、愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター、四国霊場第五十一番札所石手寺総合調査報告書、2017、180

胡光編、愛媛大学法文学部日本史研究室、

四国霊場第五十二番札所太山寺総合調査報告書(2)、2016、150

胡光編、愛媛大学法文学部日本史研究室、
四国霊場第五十二番札所太山寺総合調査報告書(1)、2015、150

〔その他〕
ホームページ
<http://henro.ll.ehime-u.ac.jp/>

6．研究組織

(1)研究代表者

胡 光(EBESU, Hikaru)
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：5 0 6 1 2 6 4 4

(2)研究協力者

長井健 (NAGAI, Takeshi)
石岡ひとみ (ISHIOKA, Hitomi)
今村賢司 (IMAMURA, Kenji)
高嶋賢二 (TAKASHIMA, Kenji)
三好賢子 (MIYOSHI, Masako)
松岡明子 (MATSUOKA, Akiko)
武田和昭 (TAKEDA, Kazuaki)
田井静明 (TAI, Yoshiaki)
黒川信義 (KUROKAWA, Nobuyoshi)
北山健一郎 (KITAYAMA, Kenichiro)
松原潔 (MATSUBARA, Kiyosi)
上野進 (UENO, Susumu)
御厨義道 (MIKURIYA, Yoshimichi)
野村美紀 (NOMURA, Miki)
芳地智子 (HOUCHI, Chieko)
小野祐平 (ONO, Yuhei)
山内治朋 (YAMAUCHI, Harutomo)
神野裕太 (JINNO, Yuta)